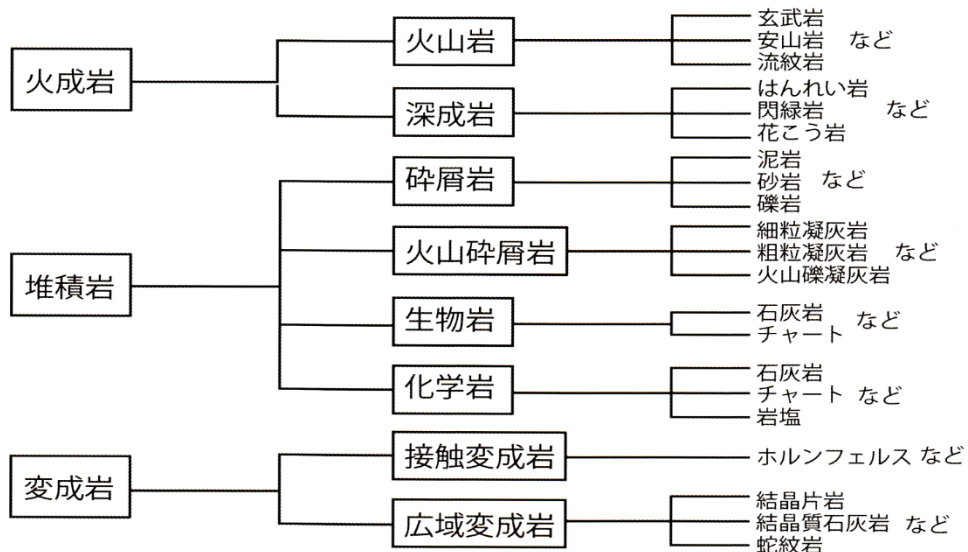
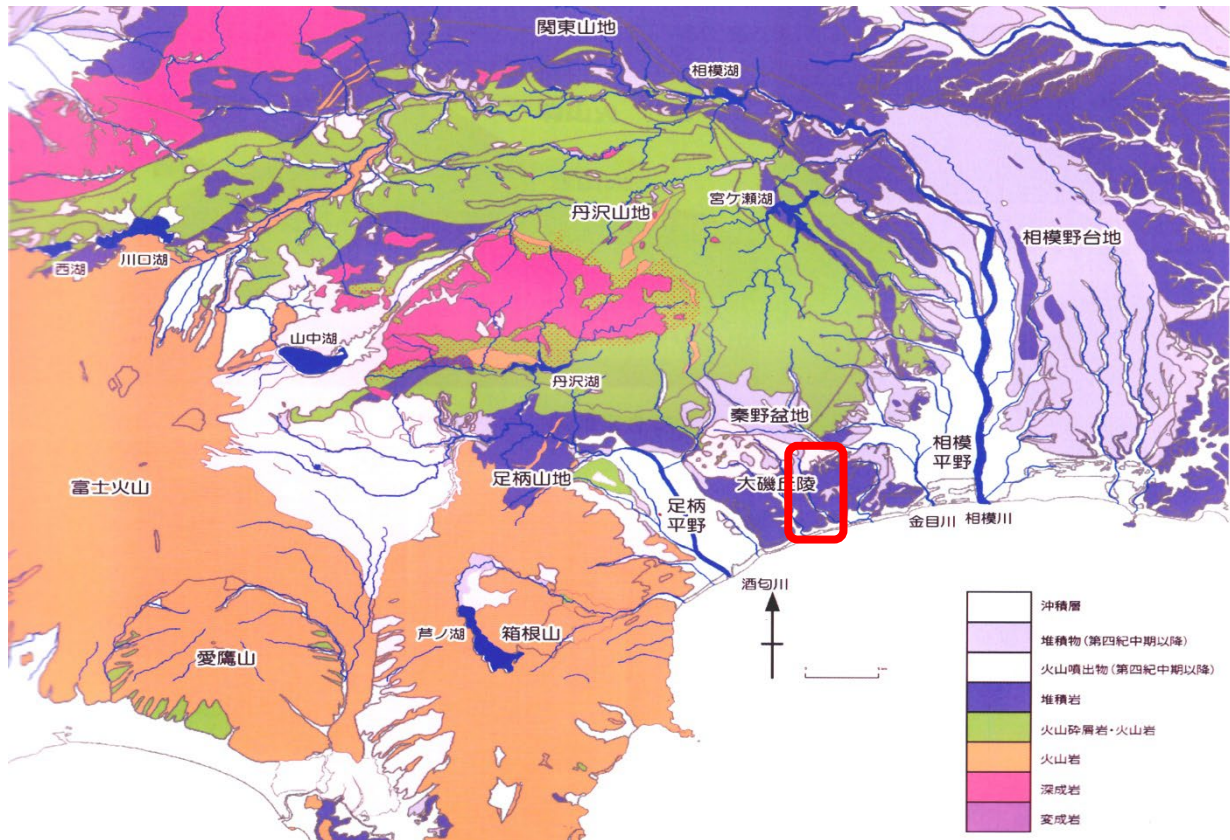


## 第1回 二宮町の地形と遺跡

宮原 俊一（東海大学文学部）

### 1. 二宮町の地形と地質



## 2. 二宮町の縄文遺跡

	旧石器	縄文	弥生	古墳以降	横穴墓	中世	計
一色	1	13	2	11	4		31
中里		3	2	4	3		12
二宮		2	4	8	4	2	20
山西・川匂		3	2	13	8	1	27
計	1	21	10	36	19	3	

### 林ノ台遺跡 (No.30) 標高：144m

遺構：竪穴住居状落ち込み遺構、土壇

土器：早期（田戸下層式・下吉井式）、前期（諸磯C式）、中期（五領ヶ台式・加曾利EⅡ式）

石器：石皿・磨石・凹石・敲石

### 一色遺跡 (No.9) 標高：65m

遺構：土壇

土器：早期（田戸下層式・三戸式）、前期（諸磯式）、中期（五領ヶ台式・加曾利E式）、後期（堀之内式・加曾利B式）、晩期（安行3b式）

石器：石皿・磨石・凹石・打製石斧

### 平台遺跡 (No.10) 標高：83m

遺構：地床炉・配石遺構

土器：前期（十三菩提式）、中期（五領ヶ台式・勝坂式・加曾利E式）、後期（堀之内2式・加曾利B1式）

石器：打製石斧・石錘・石鏃・石匙

自然遺物：ナガスクジラ・マイルカ・マイルカ的一种

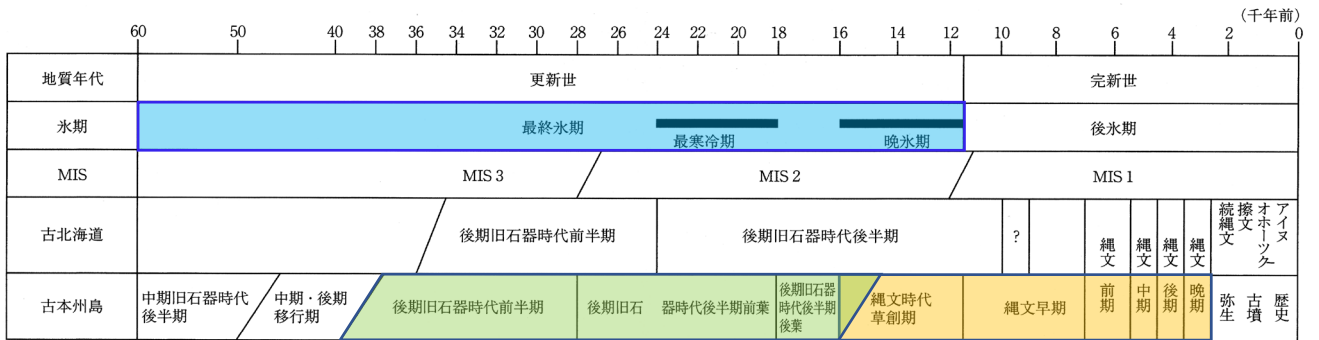
### 等覚院境内遺跡 (No.17) 標高：15m

遺構：不明

土器：前期（諸磯b式）、後期（堀之内1式・加曾利B3式・安行1式・安行2式）、晩期（安行3a式・大洞B-C式）

石器：石皿・磨石・石錘・磨製石斧・石棒

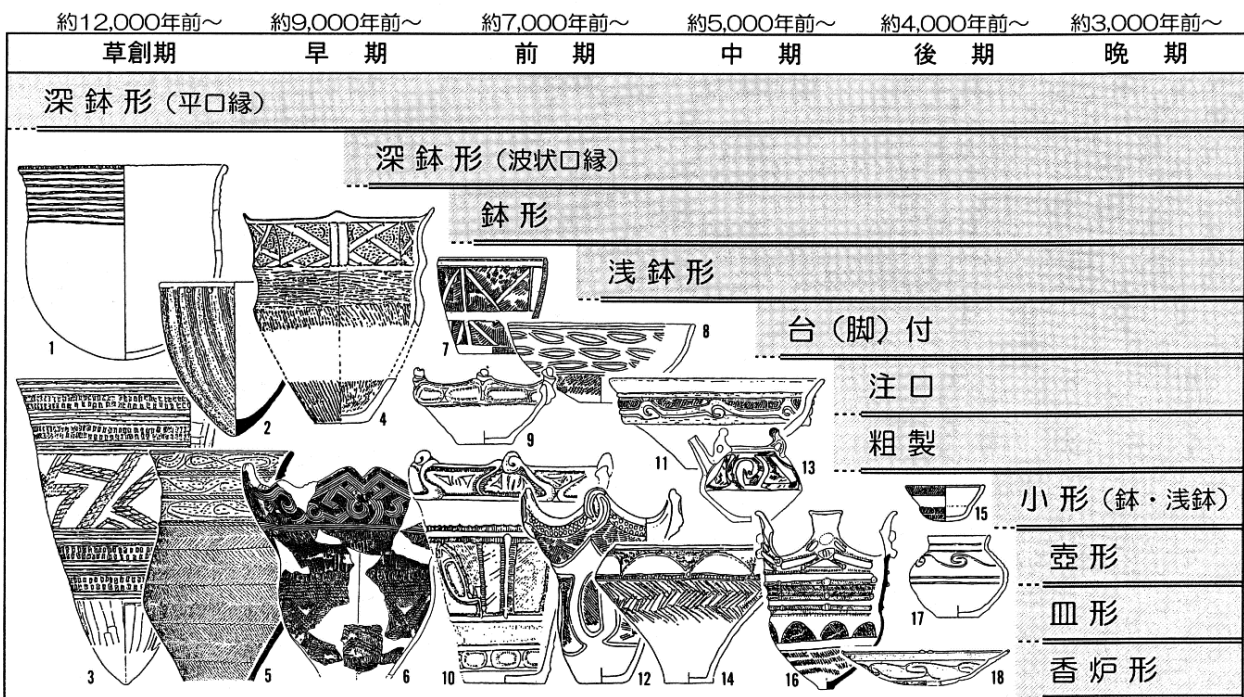
### 3. 考古学における日本列島の時代区分



佐藤宏之 2013 「日本列島の成立と狩猟採集の社会」より転載・加筆

#### 【縄文時代6時期の特徴】

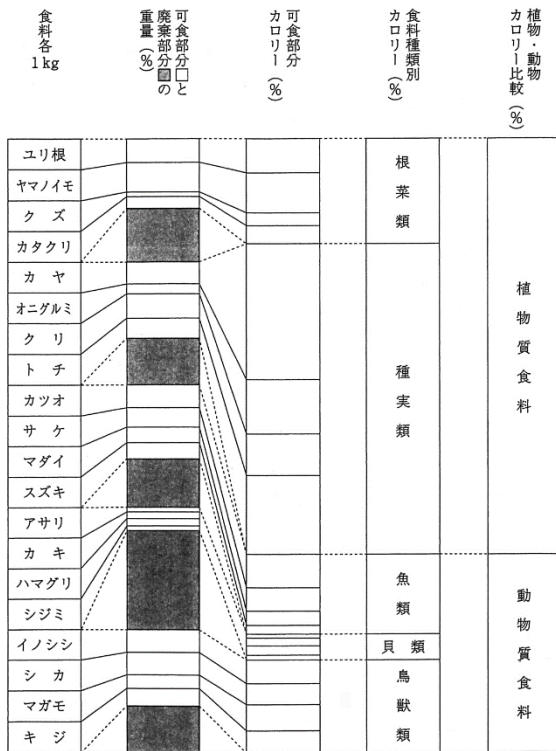
- 草創期** 土器・石鏃の出現 石槍（尖頭器）の使用 **〈晩氷期の時代〉**
- 早期** 本格的定住生活の開始（集落形成） **〈後氷期の時代〉**  
貝塚の形成 骨角製釣針・刺突具の使用
- 前期** 大規模集落・集団墓の形成 地点貝塚の形成 **〈最温暖化の時代〉**  
木工技術の完成 布づくり 漆技術のはじまり
- 中期** 大規模集落の展開 遺跡数の爆発的増加 大形土器の使用  
石皿・磨石などの加工具が生産用具の主体を占める
- 後期** 大形貝塚の形成 磨消縄文の発達 注口土器の安定  
粗製土器と精製土器の分化 塩づくり
- 晩期** 遺跡数の減少 呪術的・祭祀的遺物の増加



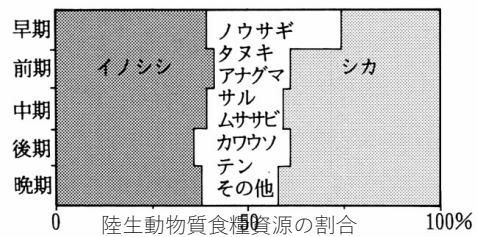
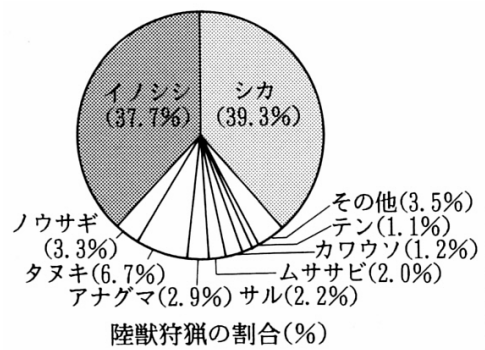
縄文土器の形と大きさ

#### 4. 縄文時代の社会

- ① 経済の基盤 狩猟・採集・漁撈などの採集活動
- ② 集落の形成 環状集落・墓・貯蔵穴
- ③ 高度に発達した技術 縄文土器、打製・磨製石器
- ④ 広範なネットワーク 黒曜石・ヒスイ・土器など
- ⑤ 信仰・祭祀 土偶・土版・石棒・石剣・石製品など



食糧の廃棄率とカロリー比較



(小杉 康『図解・日本の人類遺跡』日本第四紀学会 1992 年より転載)

(鈴木公雄『貝塚の考古学』東京大学出版会 1989 年より転載)

#### —参考文献—

小野 昭/春成秀爾/小田静夫 編 『図解・日本の人類遺跡』日本第四紀学会 東京大学出版会 1992 年  
 小杉 康 「食糧資源」『図解・日本の人類遺跡』日本第四紀学会 東京大学出版会 1992 年  
 設楽博己「縄文人の動物観」『人と動物の日本史 動物の考古学』1 吉川弘文館 2008 年  
 杉山博久「原始」『二宮町史 資料編1 原始・古代・中世・近世』二宮町 1990 年  
 鈴木公雄『考古学入門』東京大学出版 1988 年  
 鈴木公雄『貝塚の考古学』東京大学出版会 1989 年  
 戸田哲也「竪穴住居」『縄文土器辞典』雄山閣 1997 年  
 山本暉久「先史・原始3 縄文時代と遺跡分布」『おおいその歴史—大磯町史 11 別編ダイジェスト版—』大磯町 2009 年  
 渡辺 誠『縄文時代の知識』東京美術 1978 年